

J A 広島市は、農業に関する経営方針として「地域農業の持続的発展と農業を通じた環境保全に取り組めます」と掲げ、自己改革においては「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標に掲げ、平成 30 年度は、自己改革実現に向けた実践計画である「第 7 次中期経営計画」「第 5 次営農振興計画」の最終年度として、さまざまな農業振興活動を展開しました。令和元年度からは「第 7 次中期経営計画」「第 5 次営農振興計画」の課題を明確にし、向こう 3 年間、重点的に取り組む事項を「第 8 次中期経営計画」「第 6 次営農振興計画」として取りまとめ、『組合員の声を聴き・声に応える徹底した話し合い実践運動』を一層深化させ、組合員の意思と J A 広島市の取り組み意識を隔たりのない同一方向とし、必要とされる組織となるべく、取り組んでまいります。

■地域別農業振興プラン

農業生産の拡大に向けて管内を 18 地区に分け、それぞれの地域特性を活かした品目の選定や計画的な作付け、振興方策をまとめた「地域別農業振興プラン」を策定しています。「地域別農業振興プラン」の実現に向けて、組合員に寄り添った営農指導ができるよう畜産・営農指導員を 18 拠点に配置しています。

また、本店営農振興課では、専門的技術指導や新規就農者の育成支援に取り組んでいます。



●地域別農業プランにより地域の特性を活かした営農指導

■販売企画マネージャーによる販路拡大

「農業者の所得増大」と「農業生産の拡大」を目的とした販路拡大に向け、販売課に配置した販売企画マネージャーが、量販店や加工業者等へのアプローチを強化するとともに、各地域の指導員と連携し、契約栽培と計画生産に努めています。



●販売企画マネージャーと営農指導員が連携し販路拡大

■管内農畜産物のブランド化の促進

管内の農畜産物の付加価値を高める取り組みとして、平成 30 年度には安佐南区の「祇園パセリ」が「広島県産応援登録制度」の登録の認定を受けました。また、特産品「広島菜」について、新たな食べ方の提案として、J A 全農ひろしまと連携して「広島菜漬餃子」を開発。さらに芸北りんごのブランド戦略として、広島駅の「みのるカフェ」での食材提案や洋菓子店との共同商品「みつりんパウンドケーキ」の開発など、さまざまな場面において管内農畜産物の P R に積極的に取り組みました。



●広島菜漬の新たな食べ方を提案する「広島菜漬餃子」

■ファーマーズマーケット

ファーマーズマーケットでは、“生産者の顔が見える店”、“広島県産農畜産物が豊富にある店”となるよう、他の量販店等とは一線を画した店舗展開を徹底し、出荷者との連携のもと、販売強化に取り組んでいます。



●ファーマーズマーケットに設置したテレビモニターで情報発信

3. 農業振興活動

■生産コスト低減の提案

生産コスト削減に向けては、水田や畑地の土壌診断を積極的に推進し肥料の適正施用および低コスト生産技術の提案や予約購買によるトータルコストの低減に取り組んでいます。

全農の銘柄集約によるコスト低減の取り組みとして、水稻用元肥・穂肥を導入し、平成30年春肥予約回覧より、既存の「い〜ね463」から「い〜ね403【改】」へ全面改訂し、コストを22%削減しました。また、異常気象の影響を受けやすい特産広島菜の安定生産に向け、専用ロング肥料「元肥野菜有機CDU333」を導入し、長雨で肥料が流失した折に発生する白斑病を軽減することができました。



●広島菜の安定生産に向け専用肥料を導入

■新たな担い手の育成

将来の担い手確保と農業生産の拡大に向けた新規就農者や担い手の育成について、「アグリサポート21事業」では、JA広島市と行政が一体となり、新規就農者の初期費用や規模拡大等の投資軽減をサポートしています。また、豊平研修センターを活用したJA広島市独自の本格的な後継者育成事業「JA広島市生き生き“え〜のう”塾」では、栽培から出荷販売までを経験しながら、就農に向けての知識や技術を習得しています。

さらに、農業への関心が高い方が幅広く参加できるよう、平成30年度から、実施内容を見直して新たな「JA広島市農業塾」を開講しました。



●実践的な農業を学ぶ「JA広島市生き生き“え〜のう”塾」

■JA広島市農業女子ネットワーク

管内の女性農業者を構成員とした「JA広島市農業女子ネットワーク」を立ち上げ、情報共有や意見交換、6次化商品の企画など地域農業の振興につながる取り組みを開始しました。



●野菜栽培などについて幅広く学ぶ「JA広島市農業塾」

■農業祭で管内産の農畜産物をPR

JA広島市では管内の農業祭全会場にて「JA広島市特産品コーナー」を設置し、管内産の農産物のPRを行いました。また、自己改革の取り組みの理解とJAのPRとして、「自己改革パネル」の設置とアンケートを実施し、多くの方に参加いただきました。今後の農業祭でも来場者に管内の農産物をPRしていきます。



●次代を担う農業女子ネットワークを設立

■「農」を応援する定期貯金の発売

総合事業を活かして、「農」を応援する定期貯金「地産地消」シリーズを引き続き発売しています。

また県内JAグループの取組みとして県内産の加工品をプレゼントする「ひろしま農業応援定期貯金」を発売し、好評いただきました。今後も「農」を応援する定期貯金を発売してまいります。



●農業祭で自己改革の取り組みを発信